

White Paper : 「枠を広げる」

2020年1月10日、1月24日、2月7日 YouTubeリリース
(株)ウエイクアップ 橋本 博季、山田 希

ウエイクアップでは、「宇宙視点からの意識の進化」というプロジェクトを進めています。今回は、「枠を広げる」をテーマに、CTI ジャパン トレーナーの橋本 博季（はっしー）とオフィスの山田 希（のぞみーる）が語り合います。

～ 「枠を広げる」ためにしていること ～

橋本： このシリーズは「宇宙視点で見る」ということなんだけれど、ふだん「宇宙視点から」なんて、見ないじゃないですか。だから今日は、枠を広げるというか、ちょっと外すというか、そういうことについて、話してみたいと思います。

山田： なんで「枠を広げる」について話そうと思ったのですか？

橋本： この間の、縣先生（国立天文台准教授）の宇宙プロジェクトのイベントに出たんだけど、宇宙って、ずっと膨張し続けてるんですよ。で、このままいくと、たぶん、いつかちぎれる（笑）。まあ、ぼくらが活着ている間には、そうはならないでしょうけど。

で、「人も宇宙」という、メタファーでもあり、本当のことみたいなこともありますよね。ぼくも、コーチングやっているから、人の成長というのは「枠を広げる」ということでもあると思っているので、そういう観点で、宇宙の話をしてみたいと思います。

のぞみーるは、枠を広げる、自分自身を広げるときに、どんなことをしてる？

山田： つまらない例かもしれないけど、まずは、「飽きるまでやる」。たとえば、ゲームをやるとき、ずっと同じやり方をやっていて、飽きるまでやって、失敗するんですよ。あ、これじゃうまくいかないんだなあ、というところで初めて、「違うやつ、やってみよう」って思う。

橋本： いったん、とことんまでやってみよう、と。

山田： そうそう、そうすると、気持ちの納得感はあるんですよ。あ、もうこれは無理なんだなあ、という。ゲームだと、自分のパターン、愛着のある攻略方法みたいなものがあるわけですよ。ここから攻めようとか、ここを押さえたら安心して次へ行ける、とか。

橋本： なるほどね。それを徹底的に、飽きるまでやる。そうすると？

山田： 身体で、「ああ、もう無理なんだ」って思えるわけです。で、別のやり方に行くんだけど、自分がふだんやらないやり方って、どこか、恐い、というか、自分の枠の中では、非合理的なんですよ。

橋本： 今の話ですごくいいな、と思ったのは、自分にとって非合理的なことをやるって、意外にやらないことなんだよね。自分の成功パターンを持っているわけだし。

山田： でも、自分の成功パターンって、「自分にとって」なんですよ。他の人から見たら、「えっ、ここから行けばいいじゃん」と思うかもしれないのに、自分は「いや、こっちだ、何か道があるはずだ」って同じやり方でずっとやってしまう。だから、それは自分にとっての「枠」なんですよ。

橋本： なるほど。それを中途半端にして「こっち行く」んじゃなくて、もうこれ以上ない、というところまで行って、それから、別の道で「こっち行く」と。おもしろい。

～ 合理性の物差しで測れない世界に行く ～

橋本： ぼく、先月、オランダでやっている「ボーダーセッション」という、アートとかデザインとかテックとかで、どうサステナブルな未来を創っていくか、というセッションに出たんです。SDGs みたいなスタンダードなものじゃなくて、医療の領域とかアートの領域とか、いろんな角度から、良い未来を創ろうとしている、かなりぶっ飛んだ研究なんかがあって。

これ、何のために役立つんだろう？みたいなことを、すごくまじめにやっている人がいる。たとえば、「ロボットの気持ちをどうやったらわかるか」みたいな（笑）。

山田： それは、「ロボットに気持ちがある」という前提からスタートしているんですか？

橋本： いやわからないけど（笑）。あと、リスって、知ってるよね。

山田： 動物のリスですよ？

橋本： そうそう。リスはね、外敵、捕食者が来ると、こう尻尾をパッと立てて、仲間に「危

ないぞ」ってことを知らせるのね。そうすると、他のリスも、尻尾が立ってるのを見て、ああ危ないらしいぞって言って、みんなでそうやるらしい。

それを模倣した、尻尾みたいなのを作って、それでAIで探知して、犬とかが来ると、リスより先に、このAIの尻尾が立ち上がる、というのもあった(笑)。

山田： え、それを見て、リスが逃げるの？

橋本： そう。それを見て、リスが危ないぞって言って逃げる。それをほんとのリスより先に尻尾を立てられるか、っていうのを、研究している人がいて。訳わからないでしょ。

山田： あはは。何のためにやってるの？

橋本： 何のため、っていう先に、副産物的に、もしかしたら全然違う使い方とかがあるかもしれない。そういうことが、世の中を変えていくって、彼らは言っていたのね。

山田： イグノーベル賞みたいだね。あれもそんな感じだよな。

橋本： それは、やっぱり、目から鱗だった。みんなが「こうだなあ」と思うところに行っても、そのくらいまでのことしか起きない。さっきの話じゃないけど、「こっち側まで行っちゃうとどうなるのかな？」っていう、極の方に行くと、わからないことが起きて、それが枠を外すかもしれない。

多分、宇宙とかも、そういう感じじゃないかと思うんだけどね。

山田： そうかもしれない。何か、物差しが変わる感じだよな。合理性の物差しだけで見るのか、何か全然違う基準を持ち込むのか。非合理の世界って、すごくおもしろいよね。

～ 枠を広げるのは「思考」ではない ～

橋本： あと、自分には、自分自身の枠を広げたい、というのがやっぱりある。コーチングとかで、人のリーダーシップの応援とかしていると、自分も幅を広げたいと思うよね。

そのためにやっていることがいくつかあるのだけれど、その中に、「会った人が適当に言ったアドバイスを、もう、絶対無条件でやる」というのがある。

山田： へえ。

橋本： 何言ってくるかわからないし、ぼくの希望と合っているものかわからないんだけど、一回、素直に従ってみる。

山田： いいね。きわめて非合理的な（笑）。なぜ、そういうことをしようと思ったの？

橋本： いや、ちょっと、そういうのがないと、枠って広がらなくない？

山田： 確かに。自分の枠の中だけで行動しているとね。思った通りのものしか出てこない。

橋本： 結局、あんまり変わらないんだよね。そこに、全然違うものを、ポンと言われて。たとえば、今、ブログを書いたりしているのも、「やった方がいいよ」と言われて、その日に登録して、始めた。書き始めたら、いろんな人から連絡がくるようになったりしてる。

「『全裸監督』、見よう」って言われたから見た、とかね。あれ、すごくおもしろいんだけど、そんなの見ようなんて、全然考えていなかったから。ちょっと自分の思っていたのとは違うけど、結構、おもしろかった。

山田： へえ、おもしろいねえ。

橋本： 全く予想していない方向に行っているんだけど。そういうこと。

山田： 何か、未知のものを呼び込む感じだよね。

橋本： そうなんだよね。のぞみーるは、他に何かある？ のぞみーるって、いろんなところに学びに行ったりしていない？

山田： ああ、学びに行っている。森の中で一人で、というのにも行ったことある。

橋本： それ、海外でしょ？

山田： そうそう、わざわざ海外まで行って。森って、日本にもいっぱいあるのに（笑）。でも、人生のどこかで、そういう決断を一回でもしておくと、ハードルが下がるじゃないですか。たぶん、一回目がすごく大変なんだと思うけど。何か、恐ろしいことが起きてしまうんじゃないか、とか。

でも、最初のハードルを越えちゃうと、「あ、こんな感じ」ってわかる。自分の感覚値があるものって、信頼があるんですよ、たぶん、自分の中で、この辺まで行っても大丈夫、という感じがある。怖いときというのは、それがわからないときじゃない？

こう、踏み外したら真っ暗、っていうときに、ちょっと踏み外してみる（笑）。

橋本： 何か、宇宙って、ぼくの中で怖いんだよね。真っ暗だし。宇宙旅行なんて、全然行きたいと思わないわけ。

山田： あ、ほんと？ 宇宙は行ってみたい、私。

橋本： 宇宙って、未知過ぎて。宇宙の映画見ても、けっこう怖い。でも、何かそこにある、ということも、すごくわかる。何かこう、瀬戸際っていうか。

山田： ああ、確かに。

橋本： 宇宙は未知過ぎるんだけど、日常の中では、自分がよくわからなくて怖いところまでやる。やる、っていうか、触れてみる、行ってみる、ということかな。肌感覚っていうか。

山田： 肌感覚は、すごく大事な気がする。そこは、思考では超えられない感じがする。

橋本： 思考じゃないんだ。

山田： 思考じゃないです。思考で超えられたことは、一回もない。粹自体が、思考じゃないじゃない？ たぶん。

橋本： 何か、今、すごくいいこと言っている気がする（笑）。

山田： いいこと言ってる？ 粹自体は、きっと、本能的だったり、ごちゃまぜになってる何かだから、そこは、手探りみたいな、要するに、感覚を総動員した方が超えやすいな、って感覚はありますね。

橋本： そうねえ、幅を広げるって、頭を使って、って感じじゃないね。

山田： 頭じゃない気がする。行動とか……。

橋本： 「何かやる」ことだよ。そういうことに「思いを巡らせる」とかじゃなくて。何かやってみる、その肌感覚というか、思考じゃないとこで行く、というのは大事な気がするね、これから、けっこう真面目に、未来を切り拓こうとしているときに。

～ ゲームのルールを変える ～

橋本： あと、やっぱり、知らないことをやった方がいいね。自分に合っている学びだけではなく、訳わからないような。さっき言ったボーダーセッションも、3日前くらいに、たまたま見つけたのね。悪口言うわけじゃないけど、「急に作った」感がすごくて、サイトの詳細を見ようとしてクリックしても、そこに飛べないわけ（笑）。

だから、逆に、行きたくなった。オランダ発で、すごく尖った雰囲気、でも内容わかんない、みたいな。で、外でやる、とか書いてあるのね。

山田： あ、屋外なのね。

橋本： そう、屋外。そして、さっきのリスの話みたいな、AI をいろいろ使ってるようなプレゼンテーションが、18くらい、延々と炎天下の中、続くわけ（笑）。皆もう、朦朧としながらやっている。

山田： なんでやったんだ、ていうね（笑）。

橋本： ちなみに、そこで、コンセプトというか、言葉として、すごく言われていたのが、「バックキャスト」ということ、フォアキャストじゃなくて。今の現状から未来を見ていく、ということではなくて、ありたい姿、未来を、一回、自分で設定してしまう。

山田： はいはい。

橋本： それが現実的かどうか、というようなことじゃないわけ。それでバックキャストするとか、そこへ行くために、どういうことが本当に必要なのか、とか、ないのであれば、何か生み出す必要があるのか、とか。テックにしても医療の領域にしても。意識の進化、とか。

山田： それも、枠というか、物差しを変えていく感じだよな。

橋本： ゲームチェンジャーなのよ。

山田： そうだよな。前提から、こう覆していくとか。ゲームでそれやると、「ふざけんな～！」って言われるけど（笑）。

橋本： でも、ルールを変えちゃうみたいなことだから、必ず、その抵抗勢力が現れる、ということも、すごく話されていた。

まあ、ちょっと、大きい話になったけど。枠を外すって……。

山田： 何か、おもしろいよね。

橋本： おもしろい。

山田： 生きている感覚があるよね。

～ 自分の中の「枠」を揺さぶる ～

橋本： ぼく、イスラエルのベンチャーを支援している女性に会ったのね。何のベンチャーかという、培養肉。肉を、細胞から培養するの。家畜を飼うのではなくて。

家畜って、二酸化炭素のこととか、地球環境にまずい、ということがあって、実は研究がもうすごく進んでいるんだって。今、宇宙で培養しているの。

山田： え、宇宙ステーションみたいなところで？

橋本： そう。知らないでしょ？

山田： おお、宇宙産の培養肉！

橋本： そう。まあ、無菌ということで、培養しやすいっていうのもあるんだけど。宇宙で暮らしていくということが、かなり視野に入っているときに、宇宙でタンパク源を安定的に供給するために、ということも、もうやっているんだよね。

山田： ああ、おもしろいねえ。

橋本： そういうのを聞くと、全然、違うでしょ。ゲームチェンジャーだから。人工のものより自然がいい、っていう、この前提もホントか？ということ。

山田： わからないよね。

橋本： そうなんだよ。ボーダーセッションの中でも、みんな、そおおかああ、みたいな感

じになった。本当に何が安全か、ということが、自分の中でも、揺さぶられてきたわけ。

山田： そうだね。宇宙に暮らすなら、宇宙産の方がいいじゃない、みたいな。地産地消（笑）？

橋本： いや、そういうことだね。だとしたら、人工のものも全然あり、かもしれない。別に、そっちを選ばなきゃいけない、ということではなくて、選択肢があると、何か幅が広がった感じ。実はそういう選択肢もあるんだよ、っていわれると、だいぶ違う気がする。

山田： ああ、そうだねえ。おもしろいね。

橋本： おもしろいでしょ。たとえば、「和牛」ってブランドでしょ。でももう、種は海外に出ている、中国には、オーストラリアからオーギー和牛っていうのが輸入されてるの。

山田： もうその時点で、意味わかんないね（笑）。オーギー和牛なんだ。

橋本： だから、「3年後の和牛は、培養肉です」みたいなことをやって、世界のトップを走る、というのも選択肢じゃないか、という話になって、ぶっ飛んだ感じがあるんだよね。

山田： 何を食べるかで、自分の身体の組成が変わる、って言うじゃない。そういう、新しいものを取り入れていったら、もしかしたら、自分の身体も、全く変わっていくかもしれないよね。

橋本： 変わるかもしれないね。そういう実態を聞いたりすることも体験だし、実際に食べてみたりすると、またそれも体験になる。そうすると、まただいぶ違ってくるかなあ、なんて思う。でも、もうすでに、いろんなことをやっているんだよね。すごいでしょ。

山田： 宇宙農場とかも、そのうちできそうだね。

橋本： 野菜も、そういうところで、水耕栽培でやっているらしいし、あと、タンパク源さえ取ればいい、とかね。まあ、「宇宙視点」とはちょっと違うかもしれないけど、そういうところから見たら、全然違うふうに見える。住む場所も、変わってくるからね。

山田： 食物連鎖の概念が崩れていく感じだね。違う連鎖が、もっと見えてくるかもしれないし。

橋本： そうそう。

～ 「枠を外す」といいこと ～

橋本： 「枠を外す」と、何がいいんでしょうね？

今、自分で話してて思ったけど、これからの時代にいいなと思うのは、選択肢が増える、ということかな。どれが良い悪いじゃなくて、いろんな選択肢があった方が、やりやすくなるんじゃないかな。

山田： 私は、やっぱり、生きている実感だな。

橋本： 生きてる実感！ この、肌感覚？

山田： 肌感覚で、未知のものに触れるときって、すごく、こう感覚が研ぎ澄まされるというか、あの感覚はすごく大事だなあと思っていて。生きていくうえで、何が待っているんだろう、っていう。

橋本： そこ、好きなんだね。宇宙、行きたいんだもんね。

山田： 宇宙行きたい、行ってみたい。ふわ～んて行って帰ってくる、みたいな（笑）。「アポロ 13」とか見ていると、肌感覚で、あ、月があそこにあるんだ、とか、あ、星ってあるんだ、とか感じる。地球から見ているだけではなくて。

橋本： 「知って」いることとは違う、ちょっと体験する感じね。

山田： そうそう。もっと、手触りがある感じ。おお～！みたいな。

橋本： じゃあ、今度、培養肉、食べに行こうか？

山田： 培養肉レストランとか、あるの？

橋本： あると思う。もう、人工の肉のバーガーも出てるから。そういうの食べたりすると、また違うかもね。

山田： そうだね、また、思考、意識が違ってくるかもしれない。

WAKE UP

橋本： あれ、これけっこういけるな、とか、意外といいな、とか。そんなふうに、いろいろ広げていくといいよね。

山田： 枠を広げる、枠を外す、って本当におもしろい。